

平成30年度 大阪市社会教育委員会議 第1回小委員会 議事録

1 日 時 平成31年2月19日（火） 14時00分～16時00分

2 場 所 大阪市役所地下1階 第11共通会議室

3 出席者

（委員）

神部委員、北野委員、高田委員、出相委員、前田委員、柳本委員、善積委員

（教育委員会事務局・区役所）

三木生涯学習部長兼市立中央図書館長

松村生涯学習担当課長

向生涯学習担当課長代理

石井指導部首席指導主事

金森区役所人権生涯学習主管課長会幹事

（こども青少年局）

吉田こどもの貧困対策推進担当課長代理

4 議事概要

（1） 開 会

（2） あいさつ

（3） 出席委員・出席関係職員紹介

（4） 報告事項

- ・「大阪市こどもの貧困対策推進計画」について
- ・帰国・来日等の子どもの教育について
- ・中教審答申について

（5） 議 案

- ・小委員会の座長について
- ・社会教育委員会議意見具申について

5 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(社会教育委員会意見具申について)

【事務局】

12月14日に開催いたしました社会教育委員会議全体会におきまして、教育委員会から諮問のありました地域と学校の協働による生涯学習の推進について、ご協議をいただきました。その結果、意見具申を検討するに当たりまして、委員を絞って小委員会を設置し、集中審議を行うということになりました。本日はその第1回の小委員会ということで、前回の全体会の場でご指摘のあった子どもの貧困対策等、今後の課題認識についての議論を円滑に進めるために、まず、意見具申の全体イメージや基本となる方向性等について本日もご議論いただきまして、3月に開催予定の全体会にお示しできるようにしてまいりたいと考えているところでございます。

今年9月の答申に向けまして、今後、毎月1回程度のハイペースでの小委員会開催になるかとは存じますが、委員の皆様方におかれましては精力的なご議論をお願い申し上げます。

【神部座長】

まずは、骨子案についてご説明をお願いします。

【事務局】

基本的に意見具申の組み立てとしましては、第1章は、社会状況や大阪市の現状をご紹介するところです。少子高齢化、グローバル化、あるいは生涯学習をめぐる状況、世論調査等、大阪市の生涯学習の状況を紹介しながら、また、大阪市の学校と地域の連携に係る現状について、学校を取り巻く状況など含めてご紹介したいと思っております。

そして、第2章は、現在大阪市が取り組んでおります教育コミュニティづくりをめぐる諸事業の現状と課題につきまして、はぐくみネット事業、学校元気アップ地域本部事業、生涯学習ルーム事業、また、児童いきいき放課後事業などの放課後活動、その他関連する事業について、現状と課題を明らかにすることとしております。

そして、本論になってくるのが、大阪市における教育コミュニティづくり、今後の課題、今後の展開といたしまして、国等の動向、本市の動向について今ご紹介したような中身も踏まえながら、教育コミュニティづくりの新たな展開に向けて、諮問のテーマが地域と学校の協働による生涯学習の推進でございますので、中心になってくるのがこの第3章の「教育コミュニティづくりの新たな展開に向けて」となります。ここを膨らませていきたいと考えております。

そして、平成32年度に作成いたします生涯学習大阪次期計画に向けて、そういった教育コミュニティづくりの課題を踏まえて、基本的な視点や方向等についてのサジェスションをいただけたらということで考えております。

【神部座長】

ありがとうございます。意見具申の核になる基本理念の第4章、このあたりについてもいろいろご意見いただけたらと思うんですけども、これからの生涯学習施策のあり方、特に今回の場合は地域と学校の協働という観点から今後柱となるキーワード、重視すべきポイント、そういうところでいろいろと皆さんのお考えとかご意見お聞かせいただければと思います。

【高田委員】

最初の全体会のときに、子どもの貧困問題とか多文化共生への対応というものがやっぱり要るんじゃないかということで申し上げたんですが、骨子の中に、基本理念あるいは必要な視点を述べる第4章に盛り込むか、地域の状況の変化ということで、入れるべきではないかなという気がしました。多文化共生への対応、格差社会、貧困問題への対応ということを生涯学習の中でも位置づけていく必要があるんじゃないかと思いました。そのときに、学校と地域の協働ということになれば、やはり子どもとか若者、青少年のいろんな支援とか学習活動、これを通して地域をつくるというか方向性なのかなと思ったので、ぜひとも4章のあり方についてのところには今言ったような視点を盛り込んでいただいたほうがいいんじゃないかと思いました。

これまでの生涯学習は学ぶ意欲がある人を対象にしてきたが、そこからこぼれ落ちるような人のセーフティーネットをかけておかないといけないなと思ったので。大阪独自の特徴というか、地域の特徴とか課題として大事にしてほしいと思いました。

【出相副座長】

第2次計画の自立と協働、第3次計画のひと・まち・まなびをつなぐといったそういう概念を引き継いできている。今回のテーマからしたら、やはりセーフティーネットですね。本来、地域学校協働とかいうと、子どもに対して生きる力をつけるというのが普通よく言われることなんですけども、我々地域のほうが子どもたちを転落させないそのためのセーフティーネットとなると、我々が学んだこと、学習した成果を生かして子どもたちを支えるという、地域側からすると、そういった生涯学習が重要だということが出てくると思うんですね。それと、大阪はやはり学力試験とかでも点数のほかにも学習への態度というのがよくないという結果が出ましたね。だから、そのためには、学校教育を終えた後に自主的に学ぶかどうかということが非常にかかわってきて、生涯学習する人になるかどうかというのも義務教育段階で決まってしまうと言われていまして、いかに学習に対して肯定的な態度を持てるようにするか、いろいろ地域の人がかかわって、例えば社会に開かれた教育課程の中で体験活動などを通して、あまり文化資本の低い家庭環境に生まれ育った子どもでも、学習することは楽しいんだという機会を、地域がかかわることによってそういった態度を変えていくということが非常に重要だと思います。

カルチュラルキャピタル、文化的な要因というのが大事ですので。だから、親じゃない大人がかかわることが重要。そういったことが、ほんとうに今非常に重要なテーマになっていますので、特に大阪がそれをやるということは価値があると思いますので、そういった視点を強調すべきじゃないかと思います。

【善積委員】

この骨子案の構成で見ていくと、2章が大阪市の事業を軸に分析、課題を示す構図に見えてしまうんですね。先生方が今おっしゃった話も含めて、今すごく地域と子どもの教育であったり、その保護者の世帯のエンパワーメントであったり、そういうところを総合的に見たときに生涯学習が何ができるかという整理をしていく必要があると思うんですね。そうすると、今の事業では全てをカバーできてない、あるいは他部局のやっていたりすることとつながらなければいけないということが出てくるはずなんです。ですから、すごく生涯学習として書き込むのは難しいいわゆる福祉の部分であったりありますよね。でも、今回はそこに踏み込んでいくようにというのが国の方向性も出ているわけですから、この全体像を通して地域で子どもたちあるいはその保護者、積極的に学ぶわけではない層

を巻き込むとおっしゃっていたそこにつなげていくためには、何が課題で、どこまでできていて、何をしなきゃいけないかというのをわかりやすく説明できる必要があるのかなど。それが第2章の役割だと思ったんですね。第3章の国の動向とかというのは、もちろん大事な話ですけど、大きくは資料編かなと実は私は思っています。大阪市は国よりも先行してやっていたらっしゃる部分もすごくたくさんあるので、市の動向、特に地域コミュニティでも、ここ何年かで地活協もつくられ、地域の中で組織自体が変わって、NPOも入り、育っているけど、いまだに融合がうまくいかなかったりとかあるじゃないですか、その辺を踏み込んで課題認識を明らかにしていくことですよ。

【神部座長】

2章は課題というものをきちっと整理して書くということと、3章の国の動向は資料編に。確かに3章は大阪市の教育コミュニティですから、市の動向をむしろしっかりとここで書き込んでもらいたいという、そういうことですね。

【善積委員】

はい。

【出相副座長】

2章に関していいますと、おそらく今後地域学校協働が求められていくということがこの中で言われてくると思うんですけども、既にいろいろ取り組みをやっておられるので、それが現状はどうなっているのか、何が課題なのか。地域学校協働を、より今後改善していくためにはどういった問題点があるのか、これは生涯学習大阪計画にもその点でもう幾つか課題は書かれてありますので、その点も含めてやっていく。

あと、実は私、今年、大阪市の地域学校協働に関する修士論文の指導と審査をしており、勉強させていただいたんですね。だから、こういう問題があるのかってわかったんですね。そしてあと、ここには挙がってない取組み、地域活動協議会とか学校協議会とかありますね、そういったいろいろな組織の運営委員会がリンクし合っていないとか、あるいは、小学校が合併されて小学校区と中学校区があまり変わらなくなっているのに学校元気アップとはぐくみが両方あったりとかですね。

【北野委員】

今のコミュニティづくりの活動とその現状分析と課題、今やってないからできないのかもしれないとか、他部局でやっていることとつながってないからできないという、現状に

対しての課題、要はやっている事業の中身と課題というレベルと、やってないからこそできてないであろうとか、つながったらもしかしたらこうできるだろうというところを分けて書かれたほうがわかりやすいかなと個人的には思いました。

【神部座長】

基本的に2章が現状で、3章が今後のあり方ですね。今、善積さんの話でいけば、まず、2章のところで教育コミュニティのあり方ということが書かれていて、それに対して今大阪市の動向はこうで、具体的にこういったことをそのためにやっているということが書かれていて、それに対して、我々が評価もするし、ただ、これからもっとこれを進めていこうと思ったら、ああいうこと、こういうことを考えながら、まさに貧困問題などもしっかり見据えながら、仕組みとかネットワークをつくっていかなければならないという、それが3章に来ればいいんですよね。それを受けて最終的に次の生涯学習大阪計画をつくるんだったら、ここで我々議論したことと、それプラス、他にもこういった柱も考慮してくださいねという部分を出すことで、大体筋は通るんじゃないですかね。だから、あくまでも現状把握が2章で、それを受けて我々は今から議論したその中身を書くのが3章ということで、そういう整理でいかがですかね。

【出相副座長】

同感ですね。

【前田委員】

だから、今おっしゃったようなことが第3章のこのタイトルにもうちょっと何か出てこないかな。何かすごくインパクトがなくて。

【神部座長】

基本的に地域コミュニティづくりについてじゃなくて、今のこの諮問からいえば、今後の地域と学校の協働のあり方ですね。あり方についてということで、今後我々としてはこういう取り組みを地域と学校の協働で進めてもらいたいということを書くという、そんな感じですね。

【北野委員】

でも、4章があり方なので。だから、3章は展望みたいにしていて、じゃ、それを具現化するんだったらどういう予定と細かいコンテンツになるかというふうにしても。

【善積委員】

4章はもう少し施策事業体系的なイメージを持っていらっしゃるのかなと思っていたので、その前段の方針みたいなのが3章かなと私なりには思ったんです。今おっしゃったようなことかなと。

【出相副座長】

僕がちょっと思ったのは、3章でこの教育コミュニティ、地域学校協働のありようについて大阪市はこうあるべきだと我々が提言して、大阪市全体の生涯学習推進のありようも変わらなきゃいけないという話になりますよね。それを、次の計画で取り入れていけたらという流れかなと思ったんですね。

【神部座長】

提言としては3章までですね。

【北野委員】

4章のほうが実現に向けてみたいなことで。

【神部座長】

3章は、高田先生がおっしゃられたように、セーフティーネットのことを強く意識してということになりますね。セーフティーネットだけじゃなくて、この3章では考え方を入れていくのだったら、例えば子どもの貧困問題とかそういったこと、特にやっぱり生涯学習施策なんですから、そうした子どもたちの教育ということを考えるべき。貧困家庭の子どもたちの自尊感情、自己肯定感というのは非常に低い。その低さというものが学力にも影響を与えて、負の連鎖というか、なかなか負の連鎖から抜け出せない。

我々の支援としては、そうした教育の視点から、彼らのそういった自己肯定感、自尊感情というのをそうした学び、教育支援を通してどう高めていけるのか、それが高まれば、学習意欲につながって、進学にもつながっていけば、貧困からの脱出というところにつながっていく。セーフティーネットがあった上でもう一步、生涯学習の視点からその子どもたちの自尊感情、自己肯定感というものを高めるための施策というのは何だろうということとはやっぱり考えるべき。同時に大きな枠としては、今後こういった地域と学校の協働というのを進めるのであれば、地域と学校の両方が豊かになっていかないと、なかなか循環していかないんですよね。だから、学校も開かれた学校づくりということで、地域とともにある学校と最近よく言われるけども、そういう学校づくりを進めるとともに、一方では、

それに賛同して、協力してくれる人たちが増えない限りはだめだと思います。学校を核とした地域づくりと、地域とともにある学校づくりというその両方の視点というものを融合させていくことが重要だと思うんですね。その中で子どもたちの豊かな育ちというものをどう支えていくのか。豊かな育ちというときに、僕の頭の中での1つは、多様な地域の大人たちとの人間関係とか交流の中でこそ、自尊心とか自己肯定感というのが育っていくと思っています。

子どもたちの自尊心を育てていくということとともに、もう1つ意識しとかなければならないのは、子どもたちに、地域を担っていくふるさと意識、つまり、地域に対しての愛着とか誇り、そういったものを地域と学校との協働の中で育てていくことです。実際今いろんなところでふるさと教育、地域と学校との協働の中で次代の地域を担っていく子どもづくりというものが、結構いろんなところでやられています。地域と学校が一緒になって子どもたちを育てていくんだというときには、一人一人の個の成長とともに、地域づくり、まちづくりというそういう視点からも捉えていく。その2つの視点というのをぜひ大きな柱として入れていただけたらいいのかなと思っています。そういういろんな視点とか課題を出していただきながら、それをうまく組み合わせていくと、我々が最終的に議論すべき柱が出てくると思うんですね。柳本さん、せっかくですから、お考え、思いを。

【柳本委員】

私は現場、皆さんが言われたような現場で活動させてもらっていて、今いろいろと聞いていたんですけど、やはり先生方が言われましたように他局とのつながり、そういうのは私たちには今、最近ちょっと見えてきたんですけど、やはり今まで私達は生涯学習、それから、はぐくみのほうのコーディネーターとかさせていただきまして、今、福祉関係の民生とかいろいろそういうのに行かせてもらったら、やはり今言われたようにそちらではそちらのやり方で似たようなことをいつもやっていらして、それで、何か一緒にできないかなと思ったりすることがありまして、今言われたようにすごくそれは今感じました。

それで、私たちは生涯学習の推進としましても、学校とのつながり、それから、地活協ができて地域の方々とお話しさせてもらっても、やはりちょっとわかってもらえないところもまだまだありまして、私たちもそっちに一生懸命一緒にやりましょうという感じでやらせてもらっているんですけど、やはり私たちも遠慮するところもありまして、なかなか思うようにいかない場合もあります。でも、私たちが今住んでいるところは一緒に一生懸

命やらせてもらって、地域の方にも協力していただいているんです。ですので、今、先生方がこういうふうに2章、3章、いろいろと言っていただきましたけど、そのようにあり方とか動向、それから方針、そういうことを今言われたことは私もすごく思いました。

【善積委員】

柱というか、視点として、まさに今、柳本さんがおっしゃったこととほぼ近いことなんですけど、提供者の視点も入れていただきたいんですね。地域ってどこの部局もおっしゃって、結局、地域ってわりと似たようなテーマを違う組織だったり、でも、同じ人が担うことになるので、やっぱり地域って負担感と警戒心を持っていらっしゃったりするんです。同じく学校の先生もそういうところがちょっとやっぱりありまして、コーディネーターを配置されるとか、さすが大阪市さんはちゃんと考えていらっしゃるとは思うんですが、人数の問題とかありますよ。それと、先生方もこのスクリーニングシートだけでほんとうに全部を理解し選ぶほどの余裕とか目線を持てるかって、やっぱりそこの実は研修は要るはずだと思っていて、そういう意味で提供する側をどう育てるか、整理をするか。私は子ども食堂、大事だと思うんですけど、子どもだけじゃなくて、別に高齢者の居場所になっただけいいじゃないかとは思っていたんですね。そういう意味のいろんな人がその地域としてそこで問題を何とか対応できる場所としてつくりたいと思ったときに、制度とか部局の壁でできないという状況が一番不効率ですよ。そうしないための1つの視点が生涯学習部局からも出ているとすると、それはすごく大きな話だと思っていて、上がそう言っているんだからって柳本さんが現場で言えるわけですよ。同じ地活協の会長に言えるわけです。何かそういうメッセージをちゃんとこの中に入れていただきたいなということを思いましたので、提供者の視点が入るとありがたいなと思いました。

【神部座長】

確かに柳本さんの話で、地域活動協議会と一緒にやろうと思ってなかなか遠慮があるとか、何か重複したことを幾つもやっちゃったり、地域の人材は限られている中で、それをどうしていくのか大事です。特に、大阪市さんはいろいろ団体がありますから。

個別に見ると、よくやっているなと思います。でも、別組織でも同じようなことをやっているんだったら、ほんとうにこのオール大阪で子どもたちを何とかしたい、セーフティネットをつくりたいと思ったら、常に考えるべきことはネットワークですよ。それぞれがやっていることをうまくつなげながらオール大阪でどう子どもたちに対して何ができる

のということを考えるべきなんです、そのつながりが弱い。そのあたり、非常に大きなこれからの課題なんじゃないかなというのを僕は思うんですね。

【出相副座長】

どう連携するかというのは、柳本さんの現場のいろいろな経験、話、また今後、次の回とか重要になってきますよね。あと、特に生涯学習ルームは人材の宝庫じゃないですか。だから、あの人たちがもっとはぐくみにかかわったりとかいきいきにかかわったりとかすればいいんですよ。

【柳本委員】

ええ。ですので、コーディネーターさんはわりと今、生涯学習推進員と兼ねて各学校におられていると思うんです。ですけど、そこでPTAさんが入ったりいろいろな人が入ったら、また2年後には入れ変わって、また一からやり直してみたいな感じのこともあるので、その辺がどうかと思います。

【神部座長】

せっかく学校にあるんだからね。だから、秋津みたいな形でね。生涯学習ルームというのは地域の人々の生涯学習のための場だけじゃなくて、そこが拠点になって、学校の子どもたちへに対して地域の人たちが何ができるのかということ。

【柳本委員】

私たちも入らせてもらいます、事業の中に。

【神部座長】

そうそう。そういうつながりというのは幾らでも。だから、秋津コミュニティなんかはまさにそれですからね。だから、そのあたりはこの生涯学習ルームの事業としてできているのかできていないのかということも知りたいですね。できてないんだったら、こんなにいい環境の中にある場はないんですから、ここが中心になって、例えば学校支援ボランティアさんを育てたりとかね。あるいはせっかく近くにいるんだったら、学校の先生と生涯学習ルームの推進員さん、そういう人たちが定期的に話し合っ、じゃ、一緒に子どもたちの事業をちょっと何ができるかということを考えたりという、それがまさに地域学校協働という、これから多分、具体的に進めて話をしていいたら、すごく生涯学習ルームというのがこれからの大阪市の地域学校協働の鍵を握るような、そんな場所に僕には思えるんですけどね。

【出相副座長】

だから、逆に大阪市内に公民館がないのが逆にチャンスなんです。そのかわり、生涯学習ルームなら学校の中にあるんですよ。これは逆に大阪市の特色として利用しない手はないですよ。

【神部座長】

だから、そんなこともこれからちょっと皆さんといろいろと現状を教えていただきながら議論して、それがこの3章にぐっと凝縮して入っていくとすごくいいなと思うんですけどね。1章はそういう大きな社会的な状況があって、2章でとりあえず大阪市の教育コミュニティづくりの現状ということで、第3章がまさに今ここでもう議論しているけど、そういった我々の思いというものをいっばいに詰め込む。第4章は、あり方についてということよりは、今後の大阪市の生涯学習施策、生涯学習大阪計画に向けてという、そんな感じでいいんじゃないですかね。最後は、3章までを受けて、4章は次の生涯学習大阪計画に向けてこういうことをやってください、こういうことを含めて次は考えてくださいというイメージでいいのかな。

今、委員さんの意見が出てきたので、その柱はちょっと整理していただいて、国の動向は資料でいい。本市の動向というのは、これは現状に入れる。2章のところはこういった具体的な事業だけを述べるのではなくて、本来このコミュニティづくりとしてあるべき姿というか、方向性というものをきちっと書いてもらった上で、それに対して今大阪市がここまではやれていますよと事業のことを書いていただく。我々としては、2章を受けた形で本来あるべき姿と大阪市が今できているところというのを見比べながら、我々のそれぞれが持っている知見とか経験とかをそこに入れて、今後はそれをもっとこういう形でやっていくべきだということを3章で書いて。4章は、そういうのを含めて、今後、次の生涯学習大阪計画ではこういう視点を必ず入れて構想してくださいよというお願いですよ。希望を書かせてもらおうという、大まかはそんな感じでいかがなのかな。

そこでさっき言ったそれぞれの取り組みは充実しているんだけど、さらに大阪市としてやっていこうと思ったら、教育委員会と市長部局との連携というのにも必要だし、生涯学習の中でやれている事業でも、小中連携ってすごく重要に思っていますね。小学校と中学校が連携しながら、中学生の子どもたちが小学生の子どもたちを授業の一環として何か教えるとか、そういう中で小学校の子どもたちは、中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんとの

人間関係をつくっていく。また、中学生は横のつながりの中では埋もれていても、そういった下の子どもたちを教えることによって、意外と今まで知らなかった新たな自分のよさというものを見つけながら、そういったものがその子の自信につながっていく。いろんなことが考えられると思うんですよね。何かそういうことをちょっと皆さんといろいろと議論しながらまとめていけたらいいなというのが僕の思いではあるんですけどね。とりあえず章のイメージとしてはそんなところでどうですかね。あと10分ぐらいですけども、では、まずこの骨子というのは大体そういう方向性でということ、一応今回の小委員会のほうでは合意というか、そういう形で進めていただけたらということによろしいですかね。

【高田委員】

よろしいですか。僕、以前、出相先生と一緒に大阪府の社会教育委員会議をやっていました。それよりもっと前に、2000年ごろにちょうど完全5日制がスタートする直前の時期に5日制の推進会議の会議に出ていたりしました。そのときの議論をちょっと振り返ってみますと、この教育コミュニティづくりというのは、もちろん学校と地域の間をどうするかということもあったんですが、地域の中での異年齢・異世代のつながり、それをつくろうというその縦のつながりと、あと、従来の地域活動の中から排除されるというか、そこから遠ざかっていたような人たちをどう包み込むかという。例えば新しく日本にやってきた外国人とか、例えば障がいがある子でふだんは遠くの当時の言い方でいうと養護学校に通っているとか、そういう人たちのつながりをつくるかという議論があったのを思い出しました。そういう課題を踏まえて、その当時は例えば総合学習で子どもたちが福祉について学んだら、そこから社会福祉協議会とのつながりができて、子どもボランティアにつながって、いずれはこういうふうに広がっていくみたいな、そういうダイナミックな、これは学校教育なのか生涯学習なのかわからないというか、まざったような活動があったのを思い出しました。

ですから、究極の狙いというか目的というのは地域をどうするかということなんですよ。異世代のつながりとか、いろんなバックグラウンドを持った人たちのつながりをつくるという、それに向けての学校と地域の協働ということだと思いますので、その辺、この間の大阪府内外のいろんな取り組みについて、またいろいろ情報提供できたらいいなと思いました。

【神部座長】

そうですね。そういう障がいを持った子どもたちとか、まさに外国籍の子どもたちを含めた多様な人間関係づくりの中で子どもたちを見守り育てていけるような、そんな環境というものをつくっていくことができれば、子どもたちはいろんなことを学び、そしてまた、自分ではなかなか見つけられなかったいろんな自分のよさをそこから発見していけるかもしれません。最終的にはそういう環境づくりというものをまさにまずオール大阪でどうつくり上げていくのかという、そのあたりの落としどころというか、きちっとした何かモデルみたいなものが一緒になってくれたらいいなと思いますね。

ありがとうございます。この意見を通して事務局さんのほうではたたき台をもう1回つくっていただいて、3月15日の全体会で出していただいて、最終的にはそれでみんなにもう1回意見を出し合う中で確定していくという流れでよろしくをお願いします。